

沖縄県保険医協会会員数  
840名  
(12月1日付 現勢)  
全国保険医団体連合会会員数  
107,526名  
(12月1日付 現勢)

# 沖縄保険医新聞

発行所 沖縄県保険医協会  
〒902-0078 那覇市字識名1195-1  
大城産業ビル106号  
TEL (098) 832-7813  
FAX (098) 832-4482  
<https://okinawa-hk.com>  
発行人 高嶺朝広  
年間購読料1800円(会員の購読料は会費に含む)

かつて、村には、日々の暮らしを支えるお店や文房具・書店、写真館など小さいながら細々とした営みがあったが、いつの間にか淘汰され、様々なお店はすっかり消えてしまった。今では、お年寄りはバスや地域のコミュニティバスに揺られ町まで出かけられるようになっている。

資本主義という何でも能率化・効率化を求めてきた仕組みやデジタル化の波は否応なしに社会・地域を変革している。歯科技工士は数十年前には歯科医療の一員として診療所で働くことが当たり前

D/CAM技術の導入は未だ端緒についたばかりではあるが、治療に欠かすことのできない入れ歯や歯の修復物を造る技工界に近年、異変が起きているのである。

①歯科技工士のなり手が激減(技工士専門学校入学者数は20年前の30%)  
②養成学校の激減(20年前の60%)  
③就業者減少(20年前の80%)  
④免許登録者に対する就業者比率(28%)  
⑤離職年齢(20代が最多)  
⑥進む高齢化(50歳以上が50%)

これらのデータは何を示すだろうか。

離職理由の上位を占めるのは技術者としての誇りは持ちながらも給与・待遇の不満である。将来を描けないのである。事実一般中小企業以下の低賃金・長時間労働である。1日16時間労働もある。加えて、2021年、政府は「歯科技工士の業務のあり方等に関する検討会」を設置はしたものの、全体として自由競争・取り引きを容認し、技工費用は技工所と歯科医院の自由契約を由とする、海外技工物の製品輸入は医療機器に該当せず、雜貨扱いであるとの姿勢だ。口の中に入り唾液に溶け粘膜に接触する技工物がこの扱いだ。驚くべき事

## 歯科技工問題を考えるシンポジウム 歯科技工士がいなくなる日は近い



理事 照屋 正信

歯科医院の可処分所得は年々減少し、歯科医師のワーキングプアもささやかれるが、この技工問題を解決には、たち行かなくなることは自明だ。失われ行く技工を取り戻すのは容易ではない。

去る10月、「保険で良い歯科医療」全国連絡会によるシンポジウムが開催された。そこで「歯科医療費の総枠拡大と歯科技工取引のルール確立」のアピールが採択された。その中で「診療報酬における「製作技工料」が、歯科技工士に配分される実効的なルールを国の責任で確立・徹底すること」を求めている。この集会の模様はユーチューブ([youtu.be/OIv\\_zFTDwWE](https://youtu.be/OIv_zFTDwWE))で公開されている。



歯科診療報酬疑義解釈／オンライン講習会を開催

参加し、講師は座覇修好部会長、東盛靖副部会長、照屋正信理事が務めた。

前半は今年度改定後に発出された厚労省疑義解釈通知を基に細かい説明を補足しながら解説した。

後半は日ごろ会員から協会へ問合せのあった質疑応答集を用いて日常診療における保険請求について解説した。その中でも今年度改定においては総合医療管理加算の施設基準の取扱いが廃止され、歯管の加算点数となつたことを開業医にとってもメリットだと報告した。また、国保及び社保のホームページに掲載されている審査情報提供事例から、OAP調整・延長ブリッジ、抗菌薬投与の取扱いなど実際の事例からわかりやすく

解説した。

最後に、座覇部会長よりオンライン資格確認の義務化について説明され、中医協にて原則義務化とする療養担当規則の改正案が答申され、会員の皆様には個別指導の通知や、患者トラブル等でお悩みの際には遠慮なく協会へ相談していただきたいと呼び掛けた。

本講習会は毎年開催しており、今後もオンラインでの開催を予定しているので、まだ未参加の先生はぜひ次回ご参加を。

NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、RBC琉球放送、ラジオ沖縄、エフエム沖縄

QRコードからもお申込みできます→  
ぜひ、多くの皆様のご参加をおまちしております。

ふう  
風  
彈

優勝候補のド  
イツ、スペイン  
を撃破！サッカ  
ー・ワールドカッ  
プでは、サムライブルーが世界を驚かせていい。大リーガーの大谷翔平選手の振る舞いも有名だ。「他の捨てた運をひろう」といいう意識で高校生の頃からゴミ拾いを実践しているといふ。輝かしい野球の実績に加えて、大谷選手の豊かな人間力も世界を魅了している。

サポートーが発した「あたりまえ」という言葉もトレンド入り。大谷選手や日本人サポートーに刺激を受けて、ゴミ拾いは世界中に拡散し始めている。日本の文化、ここが発信され、世界の規範となるのはとても誇らしい。

さて、日本の政治の世界はどうだろうか？ 相次ぐ政治と金の問題、宗教団体との癒着が「あたりまえ」： 支持率低下、投票率低下でもわかるように、サポートーとなるべき国民の政治離れが進んでいる。

「戦争のない平和な国際秩序」、これこそ今世界が求めているものである。「戦争放棄」と「戦力不保持」憲法第9条を有する日本こそ、世界に規範を示せる国であり、この「あたりまえ」を世界に拡散することこそが日本の使命ではないだろうか。

N・K





